



## 〈ニッポンの森の中の淑女たち〉

ジャーナリスト  
松本 侑壬子

『幻の滝を見に行く温泉付き紅葉ツアー』に誘われたら？ わあ、行きたい、と集まった七人の元気な中高年女性たち。ガイドの青年と一緒に滝を目指して山登りを始めたが…。

近年、高齢者の体力、運動能力はますます高まり、文部科学省の二〇一三年度の調査では、特に六五〜七四歳の女性とは同年代の比較では過去最高の成績だとか。つまり、すこぶる元気なのだ。そういう女性たちが山で道に迷ったまま置き去りにされたら？ 三〇代の沖田監督は、オリジナル脚本により、この自身の母親世代の女性たちのサバイバルへの奮闘ぶりをいたわりと驚嘆を込めて描く。「とにかく自分が面白そうだな、と考えて出てきた作品」なのだという。

紅葉の山に向かうバスには、四〇代から七〇代まで、年齢も性格も違うさまざまな個性の女性たちの一行が乗っ

ている。山の麓からは徒歩。カメラを構えたり、草花を愛でたり、おしゃべりに夢中になったり、のんきに気ままに山を登っていく一行を案内するのは、ちよつと頼りなさそうなツアーガイドの菅さん。ほどなく菅さんの足が止まり、周りを見回して首をひねり始める。ついに、すぐ戻るから、と言い置いて、どこかに行ってしまった。いつまでたっても戻らない菅さん。携帯電話は圏外で通じない。

さあ、どうする。七人は、菅搜索隊四人と居残り三人組に分かれ、連絡は居残りの一人が持つホイッスルと搜索隊のうち元オペラ歌手だった田丸が歌声で知らせ合うことに。だが、歌声に聴えるのは鳥の声ばかり。慣れない歩行で腰を痛める者、木の枝で杖を作る者、ソーイングセットで器用に杖の取っ手を作る者、と日頃の生活の地がだんだんあらわになってくる。疲労と不安からつい

刺々しい言葉が飛び交う場面も。完全に道に迷った七人は、迫りくる暗闇の中、木の下に草を集め、栗、クルミなどの木の実やキノコ、持参のお菓子類などを持ち寄り、分け合って食べる。集めた木の葉とレジャーシートの下で身を寄せ合って夜露をしのぐことに。見上げれば、何と！ 空には満天の星。思わずみんなで声を合わせて歌うは「恋の奴隷」というところがおかしい。

野宿の翌朝は、草相撲やわらで縄跳びをしながら救助を待つ。が、誰も来ない。必死で道を探して、ようやく元の山道まで戻りつく。やれやれ、ここなら救助隊も見つけやすいだろうと安堵の表情。その時、ひと声あり。「せつかくだし、みんなで滝を見に行かない？ 温泉だつて入ってないもの」さすが『過去最高』のお墨付きのパワフルウーマンたち！ そうよ、そうよと立ち上がり…。

森の中で迷ったおばあさんたちの自力サバイバル作戦といえ一九九〇年製作のカナダ映画「森の中の淑女たち」が忘れ難い。それから四半世紀。危機にたじろがぬ度胸、とっさに出る生活の知恵、困った時に手をつなぎ励まし合う女の友情…日本のおばちゃんたちも立派なものだ。



### 『滝を見に行く』

日本映画 (88分)

監督：沖田修一

出演：根岸遙子、安澤千草、荻野百合子、桐原三枝、川田久美子、徳納敬子、渡辺道子、黒田大輔

11月22日、新宿武蔵野館にてロードショー、順次全国公開

©2014「滝を見に行く」製作委員会